新生納税貯蓄組合によせて 1

所沢税務署
署長 中村 一雄

平成29年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

所沢署管内納税貯蓄組合連合会の組合員の皆様には、平素から税務行政に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

初めに、永年納貯事業発展のため献身的にご尽力され、連合会を支えてこられた三上会長のご訃報に接し、ご生前のご功績を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

昨年は6月に入間市、10月に飯能市、所沢市、狭山市と管内全ての市で納税貯蓄組合が設立し、12月には臨時総会が開催され、新たな納税貯蓄組合連合会がスタートされました。

近年においては、全国的に見ても組合員数の減少、役員の高齢化、財政基盤の弱体化により、納税貯蓄組合の存続が危ぶまれる状況となっておりました。

このような中、「納貯の灯はふたたびともる」という信念のもと、故三上会長をはじめとした役員の皆様方の「納税資金の計画的な備蓄と納期内完納の定着化」という納税貯蓄組合の原点に回帰したお声掛けにより、多くの志ある方が入会されました。

改めて、そのリーダーシップと行動力に敬意を表する次第であります。

これから地域社会のリーダーである皆様方により、所沢署管内納税貯蓄組合連合会と各市納税貯蓄組合が活性化し、税務行政の良き理解者としてご協力いただけることは、誠に心強い限りであります。

今後とも、皆様と積極的に意見交換を行いながら、円滑な税務行政の推進に努めていくとともに、各種施策を通じ、国、県、市、金融機関及び関係民間団体と連携・協調を図っていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たり、新しい年が皆様にとりまして、幸多き年となりますよう、心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

前所沢税務署長
税理士 中田 義直

「日本を救う！新生納税貯蓄組合」

既存の納税貯蓄組合はその役割をほぼ終了したとしてすべて解散、その趣旨を引き継ぎつつ新たな組合を所沢税務署管内の各市に一つずつ設立、過日、連合会臨時総会が開催され新生納税貯蓄組合として出発されましたこと、誠におめでとうございます。

思い起こせば、私が所沢税務署長として赴任した一昨年の夏でした。役員会が所沢税務署の会議室で開催され、このままでは納税貯蓄組合は自然消滅してしまう何とかしなければ、という極めて強い責任感と危機感から、役員皆さんの全員一致による「会費制導入」の決議と新たな組織造りが話し合われました。

この時が、まさに新生納税貯蓄組合誕生の第一歩だったと記憶しています。

今から思えば、英断をもって、本当に良く決議されたと思います。

そして、国(税務署)・県(県税事務所)・市(市民税課等)のサポートを確認しながら、税務連絡協議会（税理士会・青色申告会・法人会・間税会・小売酒販組合）、各市の商工会議所・商工会、医師会等師会、銀行等金融団等の協力を得て新しい組織づくりに着手していただきました。

その後約1年、組織造りに邁進していただいた結果、会員数も当初の二十名から二百名を超える会員数へと大変身し新生納税貯蓄組合が誕生しました。

ところで、「財政はその国の政治の質や姿を映す鏡」とも言えますが、日本ではその財政(国や地方公共団体の経済活動)が急速なスピードで悪化しています。

日本財政は破綻するのか、しないのか、二〇二〇年（プライマリーバランス）問題、二〇二五年(団塊の世代の後期高齢化突入による医療・介護費の激増)問題と難問が山積しています。

戦後の財政の難問を解決すべく誕生した納税貯蓄組合、生まれ変わった新生納税貯蓄組合がこれから必ず遭遇する財政の難問を解決し、日本を救う救世主であろうことを想像し、また大いに期待しているところです！

最後に、新生納税貯蓄組合設立の立役者である連合会の三上会長が昨年の暮れなくなられました。三上会長なくして新生納税貯蓄組合は設立できませんでした。

残念でなりません。衷心より、お悔やみ申し上げるとともに感謝申し上げます。（合掌）